



小助川裕康(露)2018年 以下、「さっぽろアートステージ2018」すべて、写真提供:さっぽろアートステージ実行委員会

さっぽろアートステージ2018 SAPPORO ART STAGE 2018

会期 2018年11月3日(土・祝)～28日(水)

会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ、SCARTSモールA・B・C

入場料 無料

主催 さっぽろアートステージ実行委員会

総合プロデューサー 端聰(美術家/CAI現代芸術研究所)

キュレーター 桶泉綾子(札幌文化芸術交流センター SCARTS)

テクニカルディレクター 岩田拓朗(札幌文化芸術交流センター SCARTS)

コーディネーター 佐野由美子(CAI現代芸術研究所)、矢倉あゆみ(札幌文化芸術交流センター SCARTS)

テクニカルスタッフ 神坂知春(札幌文化芸術交流センター SCARTS)

アートとの関係
「みる」「かう」「はなす」「つくる」から始まる

「さっぽろアートステージ」は、美術、音楽、演劇など、文化芸術に関わる市民の発表の場として、2005年から毎年開催されている秋の文化イベントです。「アートの入口」をテーマとして、1ヶ月にわたり、札幌市内各所でさまざまな催しが行われます。美術部門「ART STREET」は、現代アートを紹介するプログラムとして、これまで札幌駅前地下広場チ・カ・ホ等をメイン会場として開催されてきましたが、2018年からは札幌市民交流プラザが会場として加わることになりました。

2018年の「ART STREET」では、SCARTSが企画の一部を担い、「みる・つくる・かう・はなす・きく。アートを楽しむ5つの方法」をテーマに、チ・カ・ホと札幌市民交流プラザの2会場で、展覧会やワークショップ、公開制作などを行いました。SCARTSでは5つの中から〈みる〉〈かう〉〈はなす〉〈つくる〉をキーワードに、アートとの出会い方や関わり方を提案しました。



SCARTSモールCに出現した「ART GARDEN」

「ART MARKET WALL」作品展示+販売〈みる・かう〉

会場 SCARTSモールA・B

出展作家 會田千夏、伊藤幸子、岡部昌生、風間天心、風間雄飛、笠見康大、櫻見菜々子、経塚真代、齊藤幹男、杉山留美子、鈴木涼子、高橋喜代史、武田浩志、西田卓司、久野志乃、森迫暁夫

1階のオープンスペース・SCARTSモールにL字型の壁「ART MARKET WALL」を設置し、札幌を拠点に活躍するアーティストの作品を展示・販売しました。作品を鑑賞するだけでなく、気に入った作品を購入するという楽しみ方を提案しました。

「ART GARDEN」作品展示〈みる〉

会場 SCARTSモールC

出展作家 小助川裕康(造園美術家)、森迫暁夫(美術家／イラストレーター)

創成川に面したSCARTSモールCには、造園美術家の小助川裕康と美術家の森迫暁夫による「ART GARDEN」が出現しました。

造園を生業とし、四季を通じて植物にふれ、自然に人の手を加えることで美をつくってきた小助川は、ふだん気に留められることのない身近な植物である苔^{フキ}を、布と鉄を素材に、高さ4mにおよぶ冬枯れの姿で再現しました。

土地の史実や神話を題材にし、シルクスクリーンで「森」を表現してきた森迫は、今回、かつて創成川の両岸に立っていた創成柳と呼ばれる枝垂れ柳をモチーフに、画面全体に柳の葉のストロークや、クマをはじめとする愛らしい生きものたちを描きだし、高さ10mのガラス面を覆いました。

ふたりの作品がつくりあげる空間は、都心のビルの中でも自然の生命力や、背景にある土地の記憶を想起させるものとなりました。

小助川裕康

造園美術家。1978年札幌市出身。北海道芸術デザイン専門学校卒業後、平面作品を中心に数多くのデザインを手掛ける。造園という仕事に出会い、その土壤から美を発掘し没頭。2008年「人々-HITOBITO-」を立ち上げ、樹木医師兼ガーデンデザイナーとしてまだ未開拓な北海道の庭を創造し発信し続けている。庭、森、イベント会場、店舗など表現の場所や方法はさまざま、作風は常に変化しつつも、主に自然と人工のバランスを意識し制作を続けている。

森迫暁夫

美術家、イラストレーター。1973年長野県生まれ。倉敷芸術科学大学 大学院芸術研究科修了。北海道テキスタイル協会会員。主にシルクスクリーンによる埋め尽くしと繰り返しをテーマに、独自の森を表現している。主な展覧会にVOCA展2008（上野の森美術館、東京、2008年）、「A Midsummer Night's Dream」（ヒロミヨシ六本木、東京、2011年）、「札幌美術展モーション／エモーション-活性の都市-」（札幌芸術の森美術館、札幌、2016年）など。



山城大督《TWELVE POINTS》2018年



それぞれの時間軸で動作するオブジェ



「OPEN STUDIO」では制作の様子を公開した

「OPEN STUDIO」作品展示＋ワークショップ〈みる・はなす〉

会場	SCARTSスタジオ
公開制作期間	2018年11月3日(土・祝)～11日(日) ※11月9日～11日は作家が滞在
展示期間	2018年11月12日(月)～28日(水)
出展作家	山城大督(美術家／映像作家)

ガラス張りのSCARTSスタジオでは、美術家・映像作家の山城大督による新作インсталレーション『TWELVE POINTS』の公開制作が行われました。「時計」を、「目に見ることのできない時間」という概念を、空間化する装置と捉えた山城は、毎日定刻に動くオブジェや一定の時間で動きのパターンを繰り返す映像など、さまざまなメディアを活用した新しい形態の「時計」を配置したインсталレーションを制作しました。観客は作品を体感することで、普段「時計」によって私たちが共通の前提だと思い込んでいる時間の感覚が、決して一様ではないことに気づかれます。公開制作中は作家と直に交流し、作品の制作過程や作家の考えを知ることもでき、完成した作品を見るだけではないアートとの関わり方を提案しました。

山城大督「感受性のワークショップ—時を見つめる」

日時	2018年11月11日(日) 10:00～11:30
対象	2歳～小学2年生(親子で参加可能)
会場	控室401・402(札幌市民交流プラザ4階)

2歳から小学2年生までを対象に、「感受性を豊かにする」ワークショップを行いました。参加者は作家の案内に従って、床に寝転んだり、水で絵を描いたりと、五感を使う体験をしながら感覚を開いていき、最後には展示室を訪れ、作品『TWELVE POINTS』を鑑賞しました。いろいろな体験を経たあとに見る作品は、普段の鑑賞とは異なる感覚や見え方をもたらしました。

山城大督

美術家、映像作家。1983年大阪府生まれ。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない『時間』を作品として展開。主な展覧会に森美術館「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声」(森美術館、東京、2016年)、第23回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。個人の活動のほか、2006年よりアーティスト・コレクティブ「Nadegata Instant Party」を結成し、全国各地で作品を発表している。京都芸術大学専任講師。



「KIDS ART FES」子どものための造形ワークショップ〈つくる〉

日時 2018年11月3日(土・祝)～25日(日)のうち8日間 ①10:30～12:00／②14:00～15:30
※実施日とプログラムの概要是下記の通り

会場 SCARTSコート

週末を中心に、アーティストが講師を務める子ども向けの造形ワークショップを行いました。絵や立体、写真や映像、時には自分の体を使うなどバラエティに富んだアーティスト企画のワークショップは、参加した子どもたちにたくさんの「つくる」体験と、制作の面白さやアイデアを形にすることの豊かさを伝えました。

11月3日(土・祝)

植田美代子「みんなで楽しくバルーンアート!つくって、遊んで、舞い上げて、バルーンなリュックもつくってみよう!」

11月4日(日)

鈴木悠哉「よい音の出るモノたち」

笠見康大「抽象画に挑戦!～描いて探そう自分の色・自分の形～」

11月10日(土)

斎藤幹男「寝ぐせばうぼう頭になろう!」

11月17日(土)

風間天心「水引」を結んでつくるオリジナルプレゼント

櫻見菜々子「可愛いみのむしをつくってみよう!」

11月18日(日)

ダム・ダン・ライ「流木で立体作品をつくろう」

武田浩志「自分の好きがつまったコラージュをつくろう」

11月23日(金・祝)

森迫暁夫「シルクスクリーン印刷で世界にひとつのトートバッグをつくろう」

11月24日(土)

オオタニアートキャラバン「ゆらゆら水族館」

高橋喜代史「自分だけの擬音バッジをつくろう」

11月25日(日)

祭太郎「祭太郎のうさぎマスクをつくろう!」

會田千夏「大きなユリカゴの中に空想的な世界を描く!」



[関連イベント]

キュレーターによるギャラリートーク

日時 2018年11月17日(土) 14:00～(約40分)
集合 SCARTSモールA・B
案内 樋泉綾子(札幌文化芸術交流センター SCARTS キュレーター)

札幌市民交流プラザ会場に展示されている作品について、参加者と共に会場をまわりながら解説を行いました。

祭太郎のアートストリート作品鑑賞ツアー

日時 2018年11月18日(日) 14:00～(約120分間)
集合 チ・カ・ホ北1条イベントスペース(東)五十嵐淳作品前

アーティストの祭太郎が独自の解釈でユーモアをまじえながら作品を解説するツアーです。チ・カ・ホ会場をスタートして、札幌市民交流プラザ会場までまわり、2018年のART STREET全体を鑑賞しました。

アートコミュニケーター鑑賞サポート

日時 2018年11月23日(金・祝)
①10:00～11:00／②11:15～12:15／③14:00～15:00／④15:15～16:15
集合 SCARTSモールA・B
案内 SCARTSアートコミュニケーター
鑑賞作品 伊藤幸子、経塚真代、久野志乃、森迫暁夫の展示作品

市民とアートのつなぎ手として活動するSCARTSアートコミュニケーターによる鑑賞プログラム。作品の解説を行うのではなく、参加者同士の言葉のやりとりを通して作品の見方を広げていく内容です。SCARTSアートコミュニケーターにとっても、活動開始後はじめてのプログラムの実施となり、事前にアーティストへインタビューを行い、会場を訪れた多くの方と対話を重ねながら、作品理解を深めていく時間となりました。